

「脱原発が主流になると日本は大変なことになるとおもいますが？」

●柿澤紀子さんからの質問

「パンドラの約束」上映のシネマライズでご挨拶させていただきました者です。元々原発推進派ではありましたが、この映画を見て一層原発の未来に希望を抱くことが出来ました。しかしながら現在の日本に於いて、映画で示されたような風力・太陽光の再生可能エネルギーにはガス発電所が必要になるとか、パイプラインが必要であること、また原発の技術革新が今後どのようになされる可能性があるのかなど、国民にはほとんど情報を得る手段がありません。多くの国民は情報不足で、情緒的な恐怖に押し流されているように思います。是非、映画で示されたような事実に基づいた情報を国民に理解できるような方法で広めて頂きたいと思います。このまま我が国で脱原発が主流になれば、完全に世界から取り残されてしまうことになると思います。

●西田昌司の答え

「パンドラの約束」は、「かつて原子力発電に反対していた環境活動家がエネルギー問題の現実を知るにつれ、原発支持に転換する動きを追った」アメリカのドキュメンタリー映画です。残念ながら上映している映画館が少ないのですが、DVDでも発売されればと思います。（反訳者注：パンドラの約束 WAC-D657[DVD] が 2014/10/31 に発売予定）

この映画は、地球温暖化がもたらす気候変動によるとんでもない被害を訴えています。火力発電は化石燃料を燃やすことによる地球温暖化や大気汚染の問題があり、原子力発電は事故が起こった際の放射性物質の拡散による健康被害の問題がありますが、両者を比較すると火力発電のリスクの方が圧倒的に大きいということです。

広島・長崎の原爆では、爆発時の放射線による急性放射線障害で亡くなった方もいますが、死因の大半は爆風と熱線であり、人々を苦しめた火傷やケロイドは放射線とは関係がありません。広島・長崎の原爆投下後の調査により、一定以上の放射線を浴びた方には発がんのリスクが上昇することがわかりましたが、福島の放射線量はそれよりもずっと低い数字です。原爆投下の翌日以降に広島市に入った「入市被爆者」の平均寿命は日本の平均寿命よりも長いという驚くべき事実もありますし、被爆者の子供への遺伝的影響も見られません。

1986年に起こったチェルノブイリの原発事故について、国連科学委員会が20年に渡る追跡研究をしました。事故後、当時のソ連政府が迅速な対応をとらなかったため放射性ヨウ素を含んだ牛乳が市場に出回ってしまい、それを飲んで大量の人が被曝し、当時0～5歳の子に集中して小児甲状腺がんが発生しました。また、事故に対処するため原子炉で大線量を浴びた緊急作業員が急性放射線障害で亡くなりました。このように被害に遭われた方々もいらっしゃいますが、それ以外の大部分の人にとっては重篤な健康被害の恐れはない、と国連科学委員会は結論付けています。

福島の原発事故についても国連科学委員会は、健康被害は全くないと報告しています。世間では放射線による健康被害が喧伝されていますが、福島のような低線量の被曝は大した問題にはなりません。チェルノブイリと違って福島では速やかに避難が実施され、汚染された食品や飲料水が市場に出回ることはありませんでしたので、チェルノブイリの事故が一般市民に及ぼした唯一の健康被害である食品摂取による小児甲状腺がんの心配もありません。

先日、東京大学医学部付属病院で放射線治療をしている放射線医学の専門の先生を自民党本部に招いてお話していただきましたが、この先生も「福島でがんは増えない、全く問題はない」とおっしゃっています。このように、信頼できる国際的組織や放射線専門の医学者が、原発事故による放射線の影響について科学的立場から言明しているのですが、これが国民に伝わらずに無用な心配・放射能アレルギーがはびこっているのです。

原子力発電はどこか核兵器を連想させますし、また連日福島原発事故の報道——国連科学委員会の報告などはほとんど報道されず、国民の不安を煽るようなものが大半です——がされると、国民は「原発は怖い」といった一方的な印象を持ってしまいます。我々政治家は国民に真実を伝えなければなりません、これは本来マスコミがやるべき仕事です。しかし、原発に関するセンセーショナルな記事・番組は部数・視聴率を稼げるので、マスコミは商業的な判断で無責任な報道を垂れ流しています。彼らは東電を敵に仕立て上げては攻撃し、国民はそれを見て溜飲を下げる、という非常に醜い状況になっています。

インターネットの普及により、私もこのように国民に情報を発信できるようになりましたが、まだまだ広がっていません。多くの人に正しい情報を知ってもらうのは何よりも重要です。是非「パンドラの約束」を多くの国民に見てもらいたいと思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>